

ちょいワル GG 道場

ちょいワルな

お花見会



令和7年4月4日(金)中央広場の桜の木の下で、お花見会を開催しました。3月中旬から暑いような日が続き、一気につぼみが膨らみましたが、その後は寒い日が続いてしまい・・・残念ながら数輪が咲く桜のつぼみの下でのお花見会となりましたが、お天気に恵まれ楽しい会となりました。

女性の参加者もあり、歌を楽しんだ後は、お楽しみの花見弁当に舌鼓を打ちました。食後はゲームを楽しみ笑いと声援が青空にコダマしました。

こぶし咲くあの丘
北国の・・・
ああ、北国の春～♪♪♪
えいちゃんと
しょうこちゃん♥



去年のお花見会は、満開になったのに・・・当日だけが春の嵐。
来年こそは、満開の桜の下でやるぞ～！ リベンジじゃあ。

わしらあ・・ちょいワルじいさん

作戦会議の活動が

冊子になったんじゃあ！

令和6年度ちょいワルじいさん作戦会議で取り組んだ
【歴史ロマンちょい探訪シリーズ 「馬桑の鉱山】を
図書館の高井司書さんが、歴史年表や写真を入れて
すばらしい冊子にまとめてくださいました！
おしゃれな表紙になりました。

馬桑にあった鉱山に興味がある方は、奈義町社会福祉
協議会又は、奈義町図書館にお問い合わせください。

奈義町社会福祉協議会 0868-36-6363

奈義町図書館 0868-36-5811



馬桑にあった鉱山
ちょいワルじいさん作戦会議
Vol. 1

ちょいワルGG道場
「歴史ロマンちょい探訪シリーズ」

昔、このへんにケーブルがあったんじゃ…

こんなぐわいでな…

むかし、馬桑に鉱山があったんじゃ！

●はじめに/ちょいワルじいさんとは
●馬桑鉱山年表
●【聞き書き】馬桑の鉱山について
●現地調査へいったんじゃ！

○県境のお地蔵さんを見に行
大水のせ
れています

●写真:現地調査動画より 撮影:菅原直樹

探検！発見！ほっとけん！

歴史ロマンちょい探訪シリーズ第2弾！！

巨人伝説「さんぶたろう」

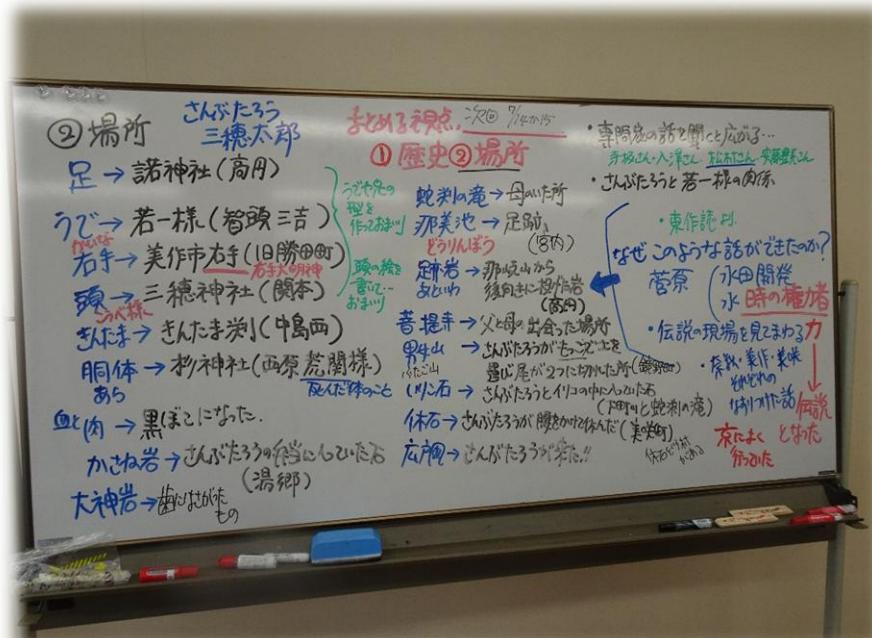
奈義町を中心に、岡山県北東部に残る中国山地をひとまたぎして、京都に三歩で行ったという巨人「さんぶたろう」伝説。佐用姫に恨まれて毒針を草履に仕込まれて、踏んだとたん体がちぎれて四方八方に飛んで、頭が奈義町関本（三穂神社）右腕が美作市右手（右手三社大明神）などに落ちて祀られたり、足跡が池だったり、食べたおむすびにあった石がアチコチにあったり。いったいこりゃあ・・誰のことで、何でこねえな話が生まれたんか・・・ちょいワルな視点で探ることになったんじゃあ。

令和7年6月10日（火）ちょいワルじいさん作戦会議

定例のちょいワルじいさん作戦会議に個々で持つとる「さんぶたろう」についての本や資料を持ち寄り知っていることを情報交換。

よおけえことゆかりの地があるで。どうやら、時の権力者の菅原道真の子孫の菅原満佐がここら周りの水田開発に携わったった人物らしい・・この人物がモデルらしいが、わしらあにやあ、ようわからんけん本にまとめた学芸員にきてもらうて、話しゅう聞くことにしよう。

まとめる視点を①歴史（なぜこのような話がうまれたか）
②場所（神社や岩や池や地域に残る伝説）



令和7年7月15日（火）ちょいワルじいさん作戦会議

講話「さんぶたろう伝説あれこれ」

奈義町役場 学芸図書課 松村 謙参事

奈義町教育委員会の民話さんぶたろう研究実行委員会で

「今も生きている巨人伝説さんぶたろう」を出版

伝説としてのさんぶたろうは、古文書や複数の系図などを通じて中世の人物「菅原三穂太郎満佐」がそのモデルとされていて、江戸時代に編纂された「東作誌」にある。文化10（814）年ごろ奈義町皆木の皆木保實によって著された地誌「白玉拾」に記している。菅原氏が在地の豪族と婚姻などを通じて結びつきを強めながら、この地に根付いていった過程を示すと共に、異なる時期に複数のルートで菅原氏につながる一派がこの地に移り住み、合流しながら勢力を拡大していったことを示唆しているもとと考えられるそうだ。美作地方北東部を支配し続けた美作菅家の基盤を築いた三穂太郎満佐の功績の大きさや神秘性、支配の正統性を巨人伝説と結び付けて、言い伝え語り伝えられていくうちに、現在の「さんぶたろう」の形になっていったものと考えられるそうだ。

でえらい壮大な話じゃあ。うまいこと、巨人伝説になぞらえたもんじゃなあ。

ちょいワルな視点で「さんぶたろう伝説」を探る

歴 史

○なぜ？このような話が生まれたのか

江戸後期に、権力者の勢力が大男の話と合わさって伝説となつた。

やすざね

皆木の皆木保實という文化人が中世の美作地方の菅家七流（菅原道真が先祖）のトップである菅原朝臣満佐という人物の水田開発等の活躍を大男伝説になぞらえて作った。

保實の書いた白玉捨（しらたましゅう）がある。

さんぶたろうは、三歩で京に行った

その権力者は京によく行っていた。馬を飛ばせば3日で行けたから、この内容になつたのでは？

さんぶたろう屋敷

那岐山と滝山の間の中腹に、細尾城あとがある。そこのことではないか？

さんぶたろうが水田や池を作った

川が少なかったので、ため池を作つて水田を開発していったことを、大男のさんぶたろうが作ったということになった。

場 所

○さんぶたろうにまつわる神社や場所・物

奈義町を中心に、西は鏡野・東は佐用・北は鳥取県賀露
南は久米南、吉備中央までの範囲で話が伝わっている。移動手段が
歩行や馬の時代に、口伝えで伝わる範囲かと思われる。

さんぶたろうが毒針を踏んで、苦しみ体がちぎれた話から神社
さんぶたろうの足跡や食べた飯に入っていた石、投げた石などの
言い伝え（作り話）がアチコチに残る。

神社→頭・足・腕が痛い時等にその形に板を切つて持つてお参りした

- ・三穂神社（関本）・・・さんぶたろうの頭が落ちた場所
- ・諾神社（高円）・・・さんぶたろうの足
- ・河野神社（智頭）・・・若一様（にゃくいちさま）とも呼ばれ
肩が落ちたと言われる場所
瀬戸内の水軍河野氏が来た
若一は、熊野信仰？
- ・右手大明神（旧勝田の右手）・・・右腕が落ちた場所。右手氏
- ・杉神社 荒関様（西原）・・・胴体（あら）が落ちてきた場所
- ・足尾さん（智頭）・・・足

岩・山・池・土 他

- ・かさね岩（美作市湯郷）・・・弁当に入つていたのをさんぶたろう
が投げた石
- ・跡岩（高円）・・・那岐山から後ろ向きに投げた石
- ・いりこ石（下町川・蛇淵の滝）・・・食べたいりこ（雑魚）の中にあった
のをさんぶたろうが投げた石
- ・大神岩（那岐山）・・・歯にはさがつてさんぶたろうが投げた石
- ・那美池（宮内）・・・さんぶたろうの足跡
- ・男女山（鏡野町）・・・さんぶたろうがもっこで土を運んでいたら
(おとめやま・双子山) 尾が切れて、こぼれてしまつてできた山
- ・休石（美咲町）・・・さんぶたろうが腰かけて休んだ大きな石
地名にもなつてゐる
- ・黒ぼこ（奈義町）・・・血と肉が黒い土になつた
- ・きんたま淵（中島西）・・・さんぶたろうの金玉が落ちた場所

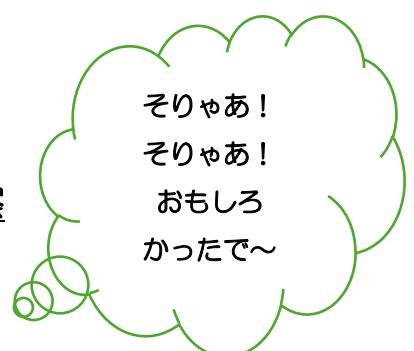
- ・広戸風（奈義町周辺）・・・さんぶたろうが来たぞ～となった
針を踏み、苦しみあえいた時にすごい風がふい
たそれが広戸風になった
- ・蛇淵の滝・・・母親の大蛇がいた場所
- ・菩提寺・・・父と母が出会った場所
- ・豊田姫・佐用姫・・・満佐が52歳の時にと佐用の赤松氏と
戦い討ち死した。恋敵の姫ということで出てくる。
毒針を草履に仕込んだ話になっている。

令和7年8月18日（月）ちょいワルじいさん作戦会議

「さんぶたろう」伝説のゆかりの場を訪れる企画会議
どけえ（場所）といつ行きやあ・・

令和7年10月14日（火）さんぶたろうゆかりの地視察

いよいよ！さんぶたろう伝説の地に出発



諾神社（奈義町成松 那岐山の中腹にあった）→胴体を祀る**杉神社**（通称
荒閑様 さんぶたろうの胴体（アラ）を祀る）→**三穂神社**（奈義町関本 さん
ぶたろうの頭を祀る）→**河野神社**（鳥取県智頭町 肩を祀る・・物語の談にな
って肩になっただけで、菅原家との関係はないとのこと）→岡山県西粟倉村で
昼食→**右手三社大明神**（美作市右手 右腕を祀る）



令和7年11月25日（火）ちょいワルじいさん作戦会議

さんぶたろうゆかりの地ツアーワーの動画の視聴と今回のちょい探訪を発表する「ちょいワル GG 道場」の開催について話し合いをしたんじや。

作り話の現場を見には行ったが、今度は、本当にあった場所を見に行こうということになり、菅原三穂太郎満佐の親が住んどったという奈義町久常の是宗城を跡を見に行くことになりました。

奥が深いけん・・どうまとめていったらええんじゃろうかなぁ！切りがないでという声もあり、ちょいワルな視点でおもしろいとこだけ切り取ったらええんじゃないか？という意見も出ました。